

令和8年度 保育協議会だより

No. 1



秋田市保育協議会

新施設長紹介



ウェルビューいずみ
こども園
園長 山本 晃子

今年度ウェルビューいずみこども園の園長になりました山本晃子と申します。園長として初めての年を迎え、重責を非常に感じておりますが着実に歩みを進めていけるよう精進したいと思います。

本園は平成14年11月に福祉複合施設の1階で保育園としてスタートしたのが始まりです。保育園で培ったものを土台に平成29年4月には幼保連携型認定こども園として新たにスタートしています。子どもたちの元気な声が響き、高齢者も、障がいのある人もない人も支えあい生きがいや幸せを感じられる日々を送ることができるよう願っています。

福祉複合施設の特色を生かし、高齢者の方と様々な形の交流にも取り組んでいます。日常的なあいさつはもちろんのこと、施設を訪問して触れ合い遊びをしたり、一緒に小さな花壇で野菜を育てたり…些細なやりとりではありますが互いにあたたかな気持ちになり、相互に良い影響を与え合っているのを感じます。また、地域の行事への参加、近隣園との交流など様々な人やものとふれあうことにより、自分たちが、ウェルビューいずみこども園が、家族や保育者だけでなく地域の方にも「愛されている」と実感して人とのつながりを感じて育ってほしいと願っています。

本園の園庭は、線路沿いに隣接しています。電車が通る際に汽笛を鳴らしてくれたり、乗車しているお客さんが手を振ってくれることもあります。

この園庭でいろいろな刺激を受けながら子どもたちは毎日「発見」を楽しんでいます。そんな好奇心旺盛な子どもたちの思いに共感してくれたり、一緒に考えてくれたりする保育者がいます。子どもの「楽しい・面白い・不思議だな」を丁寧にくみ取り多彩なアイディアで日々保育している職員の存在は本園の宝ものです。

子どもたち、保護者のみなさん、そして働く職員も安心して過ごせる場所となるよう努めてまいります。

新施設長紹介



ごしよの保育園
園長 鈴木 慎司

ごしよの保育園は、イオンスタイル御所野などの商業施設や数多くの公園があり、活気に満ちた魅力的な所にあります。自然も豊かで、園舎前の遊歩道には桜の木が立ち並び、四季を感じることができます。また、隣接する御所野第三街区公園（通称ごりら公園）は、まるで私有地のように使わせていただき、地域の方々に見守られながら、元気な子どもたちの声が響き渡っています。

この度、新体制が発表され、園長を務めることとなりました。私は平成22年に本園に勤め始め、今日まで、ずっと保育士として働いてきたので「慎司先生」と呼ばれることが当たり前でした。『園長先生』と呼ばれる度に、不思議な気持ちになるというのが、3ヶ月続いています。責任の重さを感じるとともに、まだまだ自分には大きな呼び名のように感じています。

さて、本園は以前200名近い子どもたちを受け入れて、大所帯で保育を進めてきました。しかし、少子化が加速度的に進み、今年度からは定員を120名に減らして保育を行っております。御所野地域においても、空いたクラスに子どもが入らない、クラスの定員を満たさないといった、少子化の影響を痛感しています。また、熊の出没への対応も余儀なくされています。先日、午前中にごりら公園に熊が出没するといった事案が発生しました。この熊問題は当分続くのだと思います。情報収集に努めながら、子どもたちの安全を第一に考え、緊張感をもって対応していかなくてはなりません。

保育士から園長という立場になり、右も左もわからない状態に加えて、上記のような大きな課題が立ちふさがっている現状です。この3ヶ月間は怒涛の日々でした。そのような中でも、落ち着いて子どもたちを見守り状況に応じて丁寧に動いてくれる職員の存在は、本園の大きな力です。私自身、職員に何度も助けられてきました。

こうした恵まれた職員とともに、私がこれからも大切にしていきたいのは子どもたちにとって安心できる園、保護者にとって信頼される園であり続けることです。そして、職員一人ひとりがやりがいをもって個々の力を発揮し、地域とのつながりを大切にしながら、持続可能な園運営を考えていきたいと思います。

先代園長先生方が育んでこられた園の歩みと想いをしっかりと受け継ぎ、園長という重責に恥じぬよう誠実に務めていきたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

新施設長紹介



サンパティオこども園
園長 佐川 喜一

子どもたちの笑顔と健やかな育ちを支えるこども園をめざして

この度、施設長に就任しました佐川喜一です。突然、以前大変お世話になった上司から、電話で依頼を受けました。施設長の職務もよくからずに、「いいですよ、私でよければ。」と返答してしまいました。その後知った責任の大きさに身の引き締まる思いを感じています。【本園は、創立10周年です】

これまでの施設長をはじめ、こども園を支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様、そして、職員のご尽力に心より敬意と感謝を抱いているところです。

私は、小学校の教職員として40年間、低学年の担任として10年間の経験があります。改めて本園の乳児・園児の様子をみると、認定こども園は子どもたちが初めて出合う「小さな社会」であり、一人ひとりの無限の可能性が芽吹く大切な場所であることが分かります。子どもたちが、毎日「今日はどんな楽しいことがあるかな、何してあそぼうかな」と目を輝かせて登園できる環境づくりに力を尽くしていきたいと思っています。そのため、秋田市保育協議会の一員として、研修を積み重ねていきたいと思っています。



【そら組（5歳児）：サッカー教室】
『2026 FIFA ワールドカップの年に』

新施設長紹介



勝平保育園
園長 伊藤 真智子

今年度より、社会福祉法人 新屋厚生会 勝平保育園の園長を務めさせていただいております伊藤真智子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。園長という立場になり、自分の力不足を痛感すると同時に、責任の重さを強く感じております。同じ法人である日新保育園からの異動となり13年ぶりに勝平へ戻ってまいりました。以前20年間務めた保育園とはいえ、時代と共にいろいろな変化を感じております。記憶を呼び起こしながらも主任をはじめ、たくさんの職員に助けていただきながらなんとか毎日を過ごしております。

当園は、昭和11年に初代の園長が私財を投じて託児所を作ったのがはじまりです。「健やかな心を持ち生き生きとした子ども」「人に親しみを持ち元気に遊ぶ子ども」「自主的・自発的に行動しようとする子ども」この三つを保育目標として掲げ、これまで90年余り、地域に根ざした保育園として歩んできました。初代園長である大島清蔵先生は「保育の父」として子どもを慈しみ、保育に尽くされた方です。大島清蔵先生の偉大な功績を後世に伝えようと、園舎前には当時の地域や保護者の方々によって顕彰碑を建立されております。

例年6月には、地域のおまつり「鹿嶋まつり」が開催されます。400年以上続く伝統あるおまつりです。園内でも子どもたちの健やかな成長を願い人形を作り、職員が力を合わせて制作した大きな山車に乗せ、地域を練り歩きます。在園児のお父さんやおじいさんにも山車を引くお手伝いしていただいております。地域の方も沿道に出て練り歩く様子を見ては「頑張って!」と応援してくださり、子どもたちも山車を引く手に力が入ります。

今後も保護者と職員との和を大切にして、地域の方に見守られながら子どもたちが健やかに育つよう、一人一人に寄り添い温かい保育を心がけていきたいと思っております。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

新施設長紹介



南通すこやか保育園
園長 石郷岡 いつか

このたび施設長を拝命いたしました。長年保育の現場に携わってきた私にとって、新たな立場で子どもたちの育ちを支える責任の重さを感じるとともに、大きなやりがいを感じております。

私は保育教諭として20年以上、子どもたちと向き合いながら保育実践を積み重ねてまいりました。その中で一貫して大切にしてきたのは、子どもたちの安心・安全を守ること、そして一人ひとりの自己発揮を支えることです。子どもたちは安心できる環境の中でこそ、自分の思いや考えを表現し、さまざまなことに挑戦する力を発揮します。施設長としても、この安心・安全を保育の土台としながら、子どもたちが自分らしく伸び伸びと成長できる環境づくりに努めてまいります。

また、これまでの保育実践の中で、私は戸外活動を大切にしてきました。自然の中には、子どもたちの心を動かし、学びを深める多くの機会があります。季節の移り変わりを肌で感じること、草花や虫との出会いに驚きや感動を覚えること、風や光、土や水に触れて五感を働かせることは、豊かな感性や探究心を育む大切な経験です。自然との関わりを通して得られる気づきや発見は、子どもたちの主体的な遊びや学びへとつながっていきます。

子どもたちには、自然や人との関わりの中でさまざまなことを感じ、自ら考え、表現する力を育んでほしいと願っています。そのためにも、子どもの声に耳を傾け「やってみたい」という気持ちを尊重しながら、一人ひとりの育ちを丁寧を支えていきたいと考えています。

さらに、保育の質の向上には職員同士の連携と学び合いが欠かせません。互いの経験や専門性を尊重しながら、職員が安心して力を発揮できる職場づくりにも取り組んでまいります。そして、保護者や地域の皆さまとも連携を深め、子どもたちの成長を共に支える園でありたいと考えています。

これからも子どもたちの笑顔を何より大切にしながら、職員、保護者、地域の皆さまと力を合わせて、より良い保育環境づくりに努めてまいります。今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新施設長紹介



秋田聖徳会第一ルンビニ園
園長 吉村 美奈子

新たな気持ちで

秋田聖徳会は法人全体で7施設の運営をしております。その中で毎年人事異動が行われ今年度からふたたび第一ルンビニ園で勤務することになりました。3年ぶりの保育園ですが、変わらない部分と大きく進展した部分等あり私自身は「浦島太郎状態」です。大きな戸惑いを感じながら周りの職員に助けてもらいながらなんとか3か月が過ぎようとしています。

自園は令和6年に150名の定員から140名、そして令和7年には120名と定員を変更しています。園の立地としては官公地には近いものの周りにたくさんの寺院が点在し、環境的にはとても静かな場所となっています。その地域性のためが、秋田県全体の悩み少子化のためなのか、ここ数年入所児童も減り定数に満たない年が続いています。法人では「選ばれる施設」を目指し目標を立て入所数の確保に頑張っているものの未だに達することができない状況が続いています。このような厳しい現実の話ばかりでは気持ちもすさんでしまうので毎日子ども達の中に入って楽しい時間を過ごし、現実逃避をしています。

子ども達や保護者にとって保育園はどのような場所なのか？「安心できる場所」そして保育士は「安心できる大人」でありたいと日々職員で話をしています。

「温かい保育」・・・一番の目指している保育です。そのためにも職員が働きやすい環境そして人間関係の構築、職員が一丸となって同じ方向でチーム保育ができるような環境づくりにチャレンジしていきたいと思っています。毎日子どもたちの笑い声や笑顔に癒されていることに感謝！そしてこの幸せな一瞬に日々感謝して過ごしていきたいと思っています。これからも皆さんにいろいろ教えていただきながら『新たな気持ちで』頑張りますのでご指導のほどよろしくお願いします。



令和8年7月 発行